

日高郡美浜町

田井・西川遺跡

町道上田井下財部線道路建設工事に伴う
発掘調査報告

2007. 12

財団法人 和歌山県文化財センター

序

日高郡美浜町は、和歌山県中部の海岸沿いに位置しています。町名が示していますように、海岸線のほぼ全域が県立自然公園になっている風光明媚な地で、特に「煙樹ヶ浜」と呼ばれる延長約4.5キロメートルに及ぶ砂丘上の大松林は、実に見事なものであります。

また、人情溢れる土地柄でもあり、昭和32年2月に、同町日ノ御崎の沖合で遭難した日本人船員を助けようと、大嵐の海に飛び込み、自らも命を落としたデンマーク人のクヌッセン機関長を今も顕彰し続けている町であります。

この度、同町田井地内に所在します田井・西川遺跡の発掘調査を実施しました。この調査は町道上田井下財部線道路建設工事に伴うものであります。

調査の結果、縄文時代後期末のピット群や土坑、中・近世の土坑、溝等を発見しました。

ここに発掘調査の報告書を刊行します。本書が県民の皆様のみならず、研究者の方々のご参考になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、この調査を実施するにあたり、ご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます次第です。

平成19年12月

財団法人和歌山県文化財センター
理事長 小 関 洋 治

目 次

I 序 章		
1 調査の経緯	-----	4
2 位置と環境	-----	4
II 遺 跡		
1 調 査	-----	6
2 遺 構	-----	6
III 遺 物		
1 縄文時代の遺物	-----	8
2 奈良時代以後の遺物	-----	12
IV まとめ	-----	13

挿 図 目 次

Fig. 1 田井・西川遺跡の位置と周辺の遺跡分布図	-----	3
Fig. 2 調査区位置図	-----	5
Fig. 3 土坑 006 実測図	-----	6
Fig. 4 遺構全体図	-----	7
Fig. 5 縄文土器実測図 1	-----	9
Fig. 6 縄文土器実測図 2	-----	10
Fig. 7 縄文土器実測図 3	-----	11
Fig. 8 縄文時代の石器・石製品実測図	-----	12

表 目 次

Tab. 1 遺構一覧表	-----	14
Tab. 2 縄文土器観察表 1	-----	15
Tab. 3 縄文土器観察表 2	-----	16

図版目次

- PL. 1 上：調査地遠景 下：調査区全景
- PL. 2 上：調査区全景 下：土坑 006
- PL. 3 縄文土器 1
- PL. 4 縄文土器 2
- PL. 5 縄文時代の石器・石製品
- PL. 6 奈良時代以後の遺物

例 言

- 1 本書は日高郡美浜町田井に所在する田井・西川遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は美浜町道上田井下財部線道路建設工事に伴うもので、2007年9月7日に発掘調査を開始し、同月28日に終了した。
- 3 発掘調査と出土遺物整理業務は、美浜町から委託を受けた財団法人和歌山県文化財センターが、和歌山県教育委員会の指導のもとに実施した。調査の組織は次のとおりである。専務理事（事務局長）松田長次郎・事務局次長（管理課長）山本新平・主査 松尾克人・埋蔵文化財課長 村田弘・専門員 山本高照・技師 川崎雅史。
- 4 発掘調査は山本高照が担当し、川崎雅史の援助を得た。また、河本純一（京都大学大学院生）が調査に参加した。
- 5 本書の作成にあたり、次のように執筆分担した。I-1 山本高照、I-2 川崎雅史、II 山本、III-1 河本純一、III-2 山本、IV 山本。縄文時代の遺物全般について、泉拓良京都大学大学院教授より、石器・石製品の材質については、久富邦彦和歌山大学教育学部教授よりそれぞれ御教示をいただいた。
- 6 出土遺物の整理は、2007年11月1日から30日まで実施した。遺物の実測はおもに堀口歩が、拓本・トレースは稲田紗千が行った。
- 7 発掘調査及び出土遺物整理にあたって、岩橋良樹・北裏典孝・田淵高行・宮井修・宮井寿明・和坂智子・津村かおりの諸氏よりご協力を賜った。
- 8 本書掲載の座標値は、平面直角座標系第VI系（世界測地系）による。高さは、東京湾平均海面を基準とする海拔高であらわす。
- 9 本書の編集は山本が行い、河本・堀口・稲田の協力を得た。
- 10 調査・整理作業で作成した図面・写真・台帳等の記録資料は財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会がそれぞれ保管している。

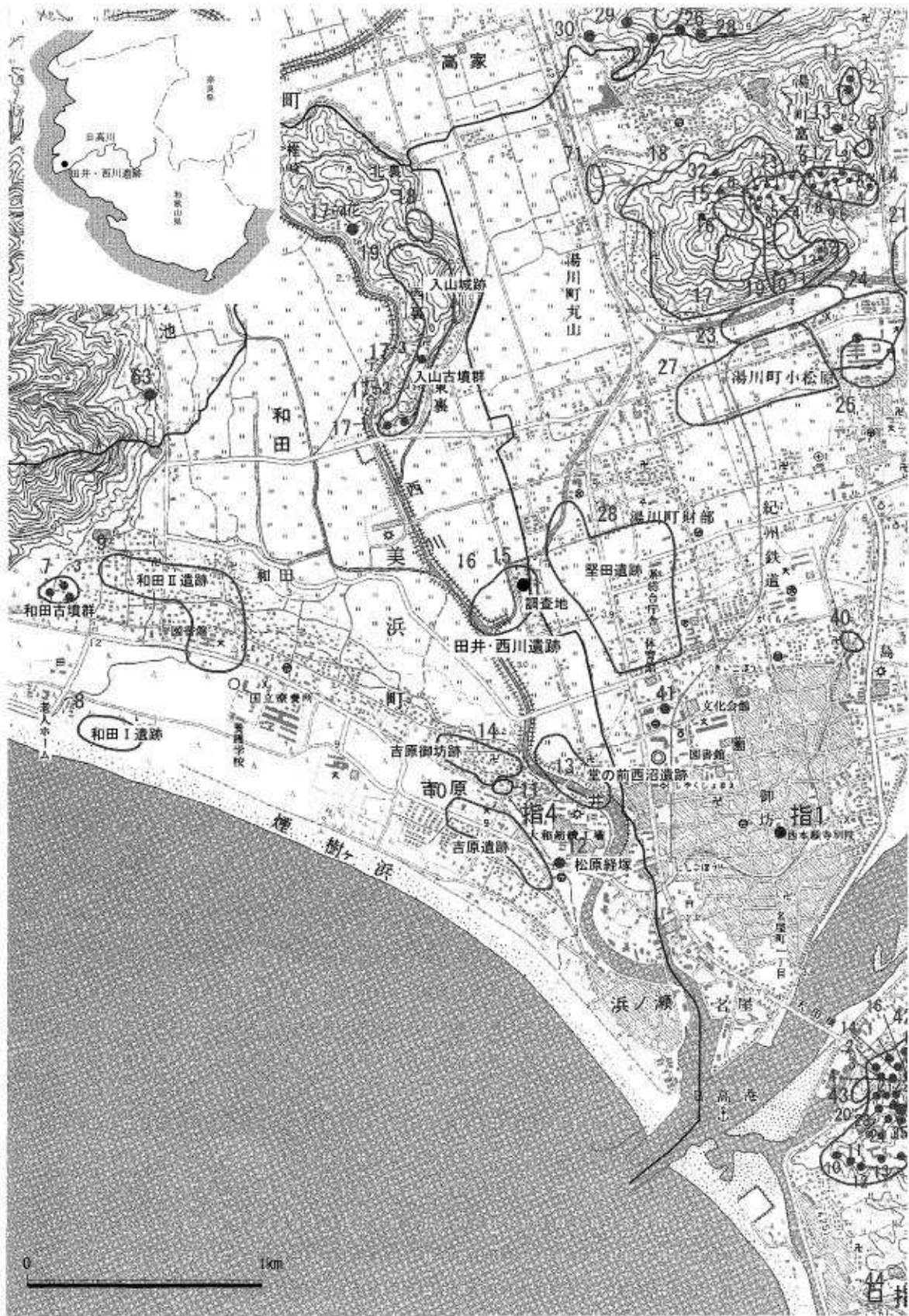


Fig.1 田井・西川遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

I 序 章

1 調査の経緯

美浜町道上田井下財部線道路建設工事に伴い、2007年6月に和歌山県教育委員会が試掘調査を実施したところ、遺構と遺物を確認したので、発掘調査を実施することとなった。

2 位置と環境 (Fig.1, PL.1)

日高郡美浜町は、和歌山県をほぼ南北に分断するように流れる日高川の河口付近に位置する。東は御坊市に、北は日高町に接し、面積は約12.8km²と県下では太地町について小さな町である。町域の東側は日高平野の一画を占め、西側には西山・日ノ山が東西に連なる。日ノ山の先端は半島状に海に突き出し、紀伊水道の入口となり、沖合いには四国の山々を眺めることができる。また、先端部には日ノ御崎灯台が置かれるなど海の交通の要衝となっている。

1953年に、三尾・和田・松原の三村が合併して美浜町になり現在に至っており、2007年9月1日現在の世帯数は3124戸、人口は8263人を数える。

美浜町でもっとも遡る遺跡は縄文時代の田井遺跡である。田井遺跡に東接する御坊市堅田遺跡は、和歌山県でもっとも早く弥生文化を受け入れた集落で、当初、川の畔にあった集落が、後に大規模な三重の環濠を掘削して、そのなかに集落を移している。集落からは青銅器の鋳型や鋳造遺構が見つかり、弥生文化の伝播経路に再考を促すものとなった。堅田遺跡に繋がる弥生時代中期前葉の集落は、平野部周辺ではみつからないが、中期中頃以降は御坊市域となる微高地上に多く展開するようになる。後期後半くらいになると、美浜町内でも西川沿いの低地に西川遺跡や堂の前西沼遺跡などが活動を始める。

弥生時代になると、砂丘上は墓地として活用されるようになる。吉原遺跡は前期頃からはじまり、中期以降は土坑墓を主体とする墓域となる。後期前半頃の様相は明らかでないが、弥生時代末から古墳時代にかけては再び多くの墓がつくられるようになる。

古墳時代になると本の脇・和田・入山に小規模な古墳群がつくられる。当時の集落は、隣接する砂丘上に和田遺跡・本の脇遺跡が営まれる。

古代を語る考古資料は少ないが、熊野古道沿いに設けられた吉原王子社の近くには、和鏡、須恵器椀などが出土した松原経塚がある。

中世後半も戦国時代になると、入山や本の脇・三尾に山城が築かれる。入山城は、山頂と丘陵南端部付近に曲輪が存在し、南端の方の城には、羽柴秀吉の南征以後に、戦後処理として青木氏が入城している。吉原御坊跡は、御坊市の由来ともなった日高別院の旧地で、日高地方の盟主であった湯川直光が天文年間(1532~1555)に築いた寺院である。周囲には堀や土塁を巡らす。

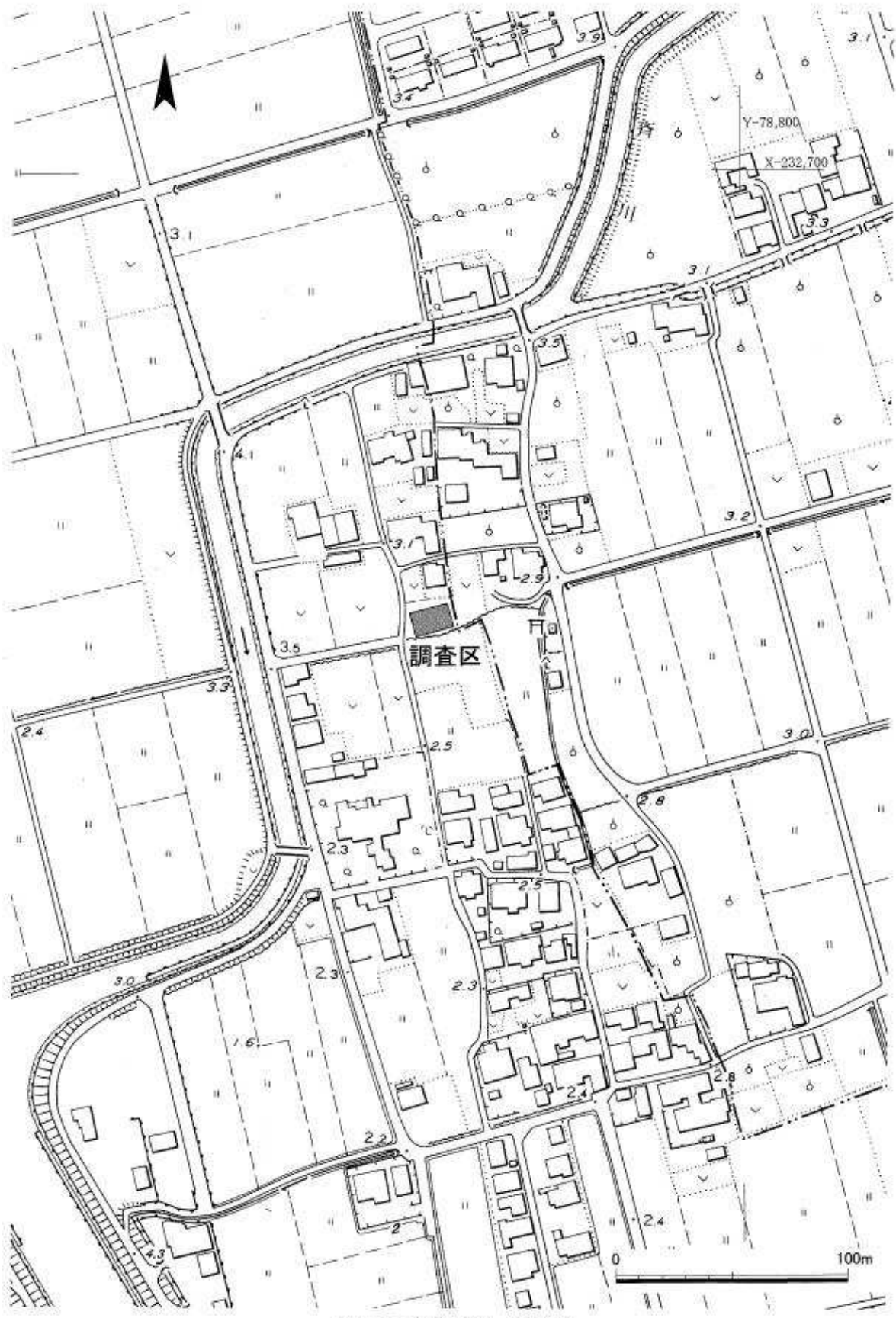


Fig.2 調査区位置図 1 : 2500

II 遺 跡

1 調 査 (Fig.2, PL.1)

調査地は、もと畑地で、地表面の標高は2.6mある。調査区は南北約11m、東西約19mで、204㎡ある。

基本層序は、上から盛土（厚さ約60cm、上部は耕土）、1953年7月の大水害による堆積土（約20cm）、大水害直前の耕土（5～20cm、東西方向の畝が南北に並行）、近世以後の旧耕土（約6cm）、縄文時代の遺物を包含する黒褐色土（4～15cm）、地山（にぶい黄褐色土）の順である。地山面の標高は約1.5mである。

2 遺 構 (Fig.3・4, PL.1・2)

検出した遺構には、ピット、土坑、溝がある。これらの遺構は、縄文時代と中・近世に属するので、この順序で記述する。

縄文時代の遺構 ピット95、土坑8、自然の落ち込み1がある。ピットは、径0.3～0.4m、深さ0.4～0.5mに達するものもあり、建物の柱穴と考えられるものも多い。黒褐色の埋土中から後期末の土器が出土している。ピット074からは磨製石斧が出土。土坑003は平面が不整形で、北側が調査区外に及ぶ。土坑003の南西方向に土坑004、土坑005、土坑085が接するように並ぶ。土坑006は調査区東端にある。平面が幅0.75m、長さ1.35mの楕円形を呈し、深さが0.25mある。主軸の方位は北に対して45度西に偏している。南寄りの壁に径0.10～0.15mの河原石が4個まとまって貼り付き、さらに北に0.30m程離れて1個が貼り付いた状態で検出された。土層は3層に分かれ、第2層は地山の黄褐色土に褐灰色土塊が少量混じっていた。落ち込み010は、調査区の西寄りにある自然の傾斜面で、深さが0.30mある。堆積土は2層に分かれ、上層が基本層序の黒褐色土で、多数の縄文土器片とともに、石剣が出土した。

中世の遺構 ピット1、土坑2、溝1がある。調査区東端にある土坑001・002はいずれも調査区外に及ぶ。両土坑から鉄滓が出土している。鉄滓の量は002の方が多い。溝009は東西方向に延び、南は調査区外に及ぶ。幅4m以上で深さ0.55mある。埋土から備前甕胴部片や平瓦片が出土。土坑002より古い。

近世の遺構 土坑008のみ。北側が調査区外に及ぶ。幅3.85m、深さ1.35m。基本層序の近世以後の旧耕土より古い。

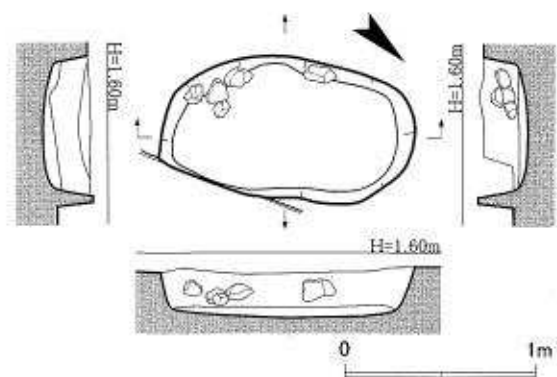


Fig.3 土坑006実測図 1:40

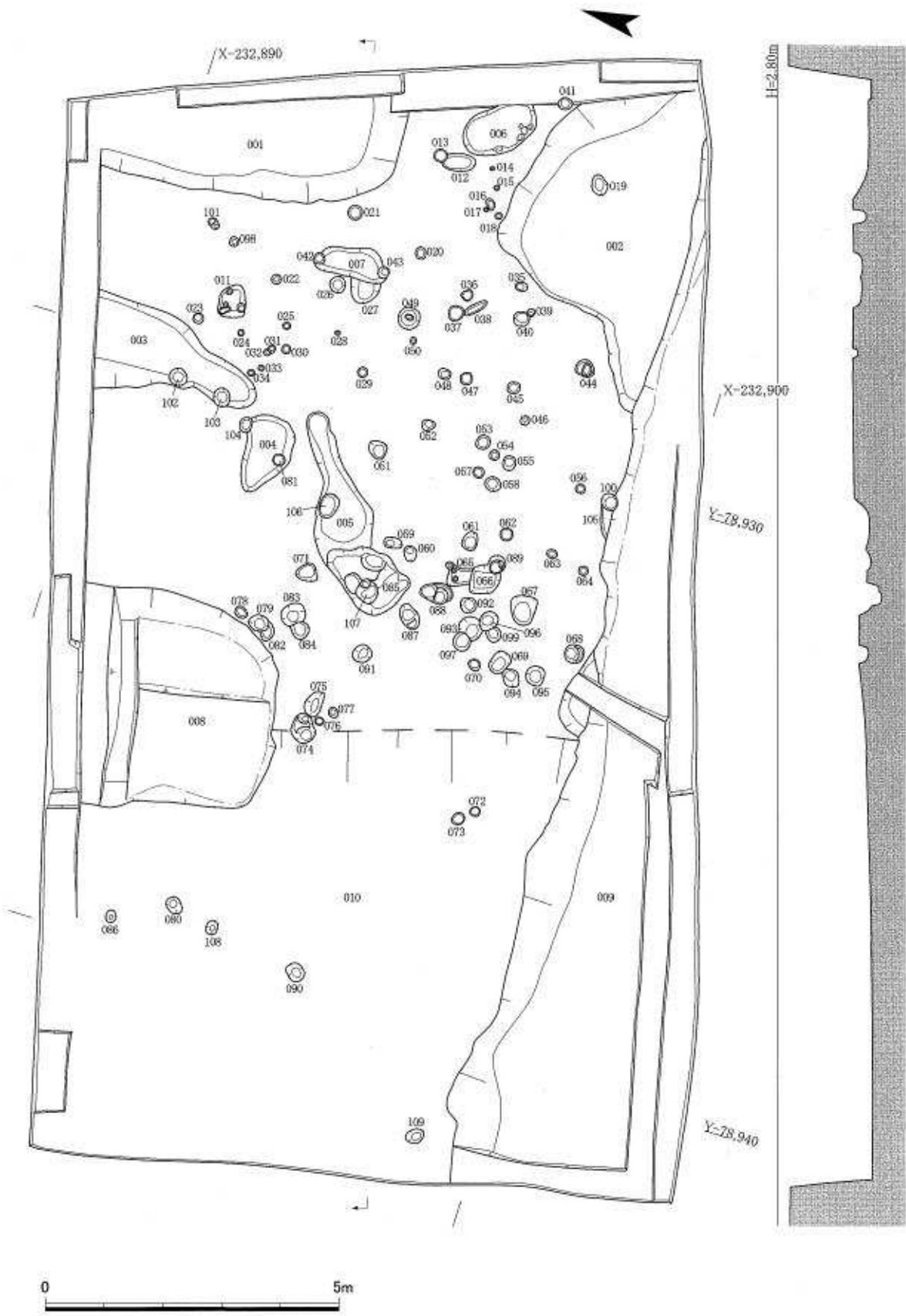


Fig.4 遺構全体図 1:100

Ⅲ 遺 物

出土した遺物には、縄文土器、石器・石製品、奈良時代以後の土器、陶磁器、瓦、鉄滓がある。このうち、縄文土器の出土量が最も多い。

1 縄文時代の遺物

縄文土器 (Fig.5~7, Tab.2・3, PL.3・4) 晩期初頭に属する可能性のある2と、中期初頭(鷹島式・船元I式)に属すると思われる89を除き、他全てが後期末(宮滝式・滋賀里I式)に属する。大半が摩滅を受けた小破片のため、器形および器面調整を判定し難い。以下では、文様のあるものや特徴のある破片について図示し、説明する。また、図示した89点のうち7点については、胎土に結晶片岩を含み、紀北地方から搬入されたものと考えられる(Tab.2・3)。

滋賀里I式(1、2) 1は波状口縁。波頂部に刺突がみられる。2は胴部。集合沈線文が施されており、滋賀里II式まで年代的に新しくなる可能性もある。

宮滝式(3~57) 凹線および巻貝による文様が施される土器群である。

3~5は波状口縁。3は凹線上に巻貝圧痕と刺突を2段にわたって施し、屈曲部には刻みが入れている。4は波底部となる凹線上に刺突を2段にわたって施している。5は凹線上に粘土粒を貼り付けた上で巻貝圧痕を施している。

6は突起状口縁。外面には凹線上に粘土粒を貼り付けた上で巻貝圧痕を2段重ねて施し、内面には刺突を2ヶ所に入れている。

7~34は平縁口縁。凹線が、7~21には外面のみに、22~28には内面のみに、29~33には内外両面に施される。34は内面に刺突が2ヶ所に見られる。

35~43は胴部で凹線と巻貝圧痕が見られる。35~37、41~47は粘土を貼り付けた上から巻貝圧痕を施している。37、39、42については、巻貝押圧によって器壁内面が突出している。また、41は巻貝押圧の幅が狭く、縦位沈線状を呈する。

44~55は胴部で凹線のみが見られる。

無文粗製土器(56~84) 文様がないため、時期の断定は難しいが、宮滝・滋賀里I式に併行するものと考えられる。

56は突起状口縁。

57~81は平縁口縁。このうち、56~69は口縁が直立、70~73は口縁が外反、74~81は口縁部下で屈曲するものである。

82~84は胴部。82の外面には巻貝条痕が見られる。

底部(85~88) いずれも凹底である。

中期初頭(鷹島式・船元I式)(89) 89は鷹島式・船元I式の深鉢頸部と思われる。

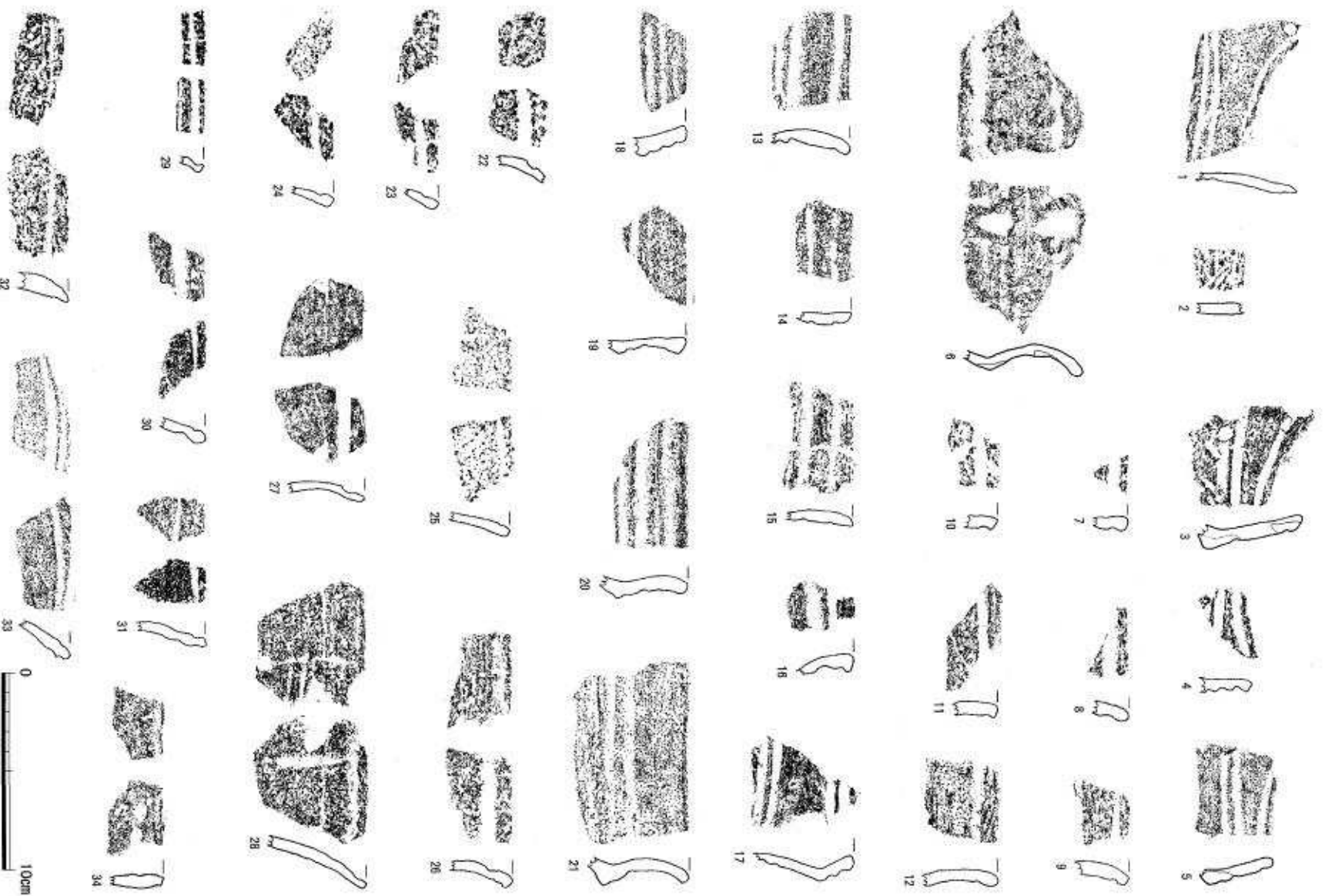


Fig. 5 縄文土器実測図 1 1 : 3

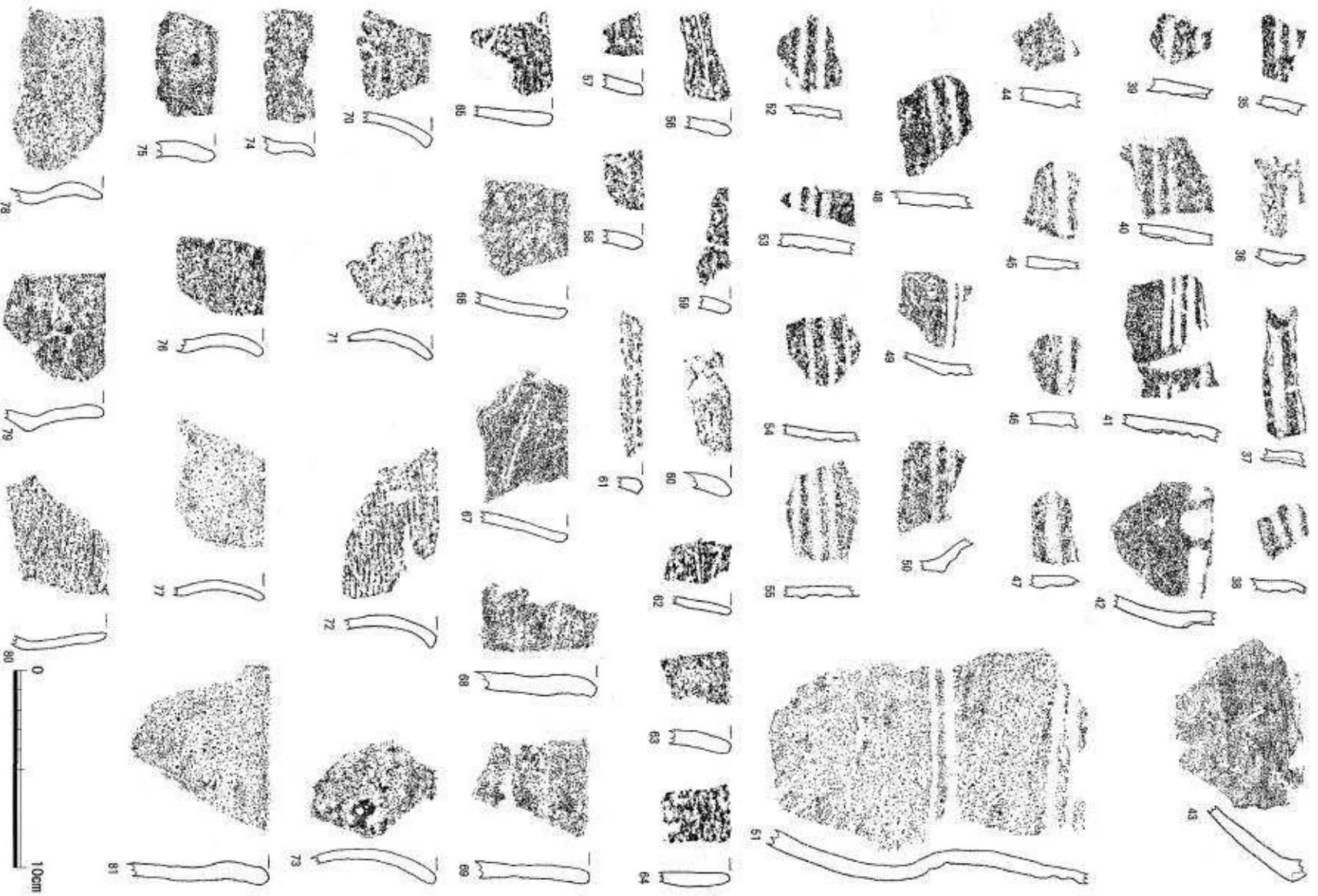


Fig. 6 縄文土器実測図2 1:3

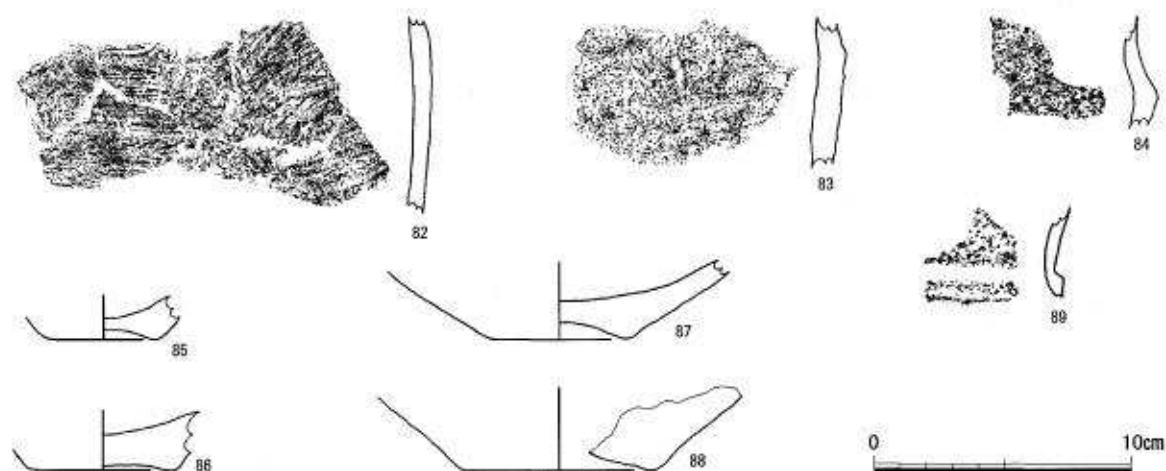


Fig.7 縄文土器実測図3 1:3

石器・石製品 (Fig.8, PL.5) 石鏃、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、敲石、石剣、サヌカイト剥片、未加工の結晶片岩が出土した。いずれも、出土縄文土器と同様に、後期末（～晩期初頭）に属するものであろう。

石鏃 (90～93) 4点出土した。いずれも凹基無茎式で、サヌカイト製である。基部のわたくりが大きいもの (91、93) と小さいもの (90、92) がある。90は隣地田で表採。91はピット074、92は落ち込み010、93は土坑006より出土。

スクレイパー (94) ピット057より1点出土した。サヌカイト製である。背面に自然面がみられる。両面より刃部を作り出しているが、右側が欠けている。

打製石斧 (95) 溝009より1点出土した。ほぼ完形。長さ11.0cm、最大幅6.3cm。撥形。刃部は風化と摩滅が激しく、細部調整は不明。肉眼では石材を判定できなかった。

磨製石斧 (96、97) 2点出土した。ともに欠損部があり、全形は不明だが、側縁に明瞭な稜を作り出している。96は隅丸方形に刃を形成。砂岩製か、溝009より出土。97は丸みをもった刃を形成し、中央に敲打痕が認められる。珪質頁岩製、ピット074より出土。

敲石 (98) 図示したもの以外にも7点出土している。98はそのうち最も残りがよい個体で、長径10.5cm、短径7.8cmの楕円形。重量580g。表裏の中央および、上縁、下縁に敲打痕が認められる。砂岩製。落ち込み010より出土。

石剣 (99) 落ち込み010より1点出土。破損のため全長は不明だが、少なくとも30cm以上あったものと考えられる。断面は楕円形。先端部は丸くおさめる。文様は陽刻。把の上部に1条の凸線をめぐらす。その上に、上下から三角形の抉りを入れることで楕円形区画を作り出し、その区画内を3本の沈線で充填した文様を上下2段施す。下段の文様は正面、背面に楕円の中心があり、上段は破損を受けているが、両側縁に楕円の中心があったと考えられる。肉眼では石材を判定できなかった。文様や他遺跡での出土例を考慮に入れると、晩期初頭に属する可能性がある。

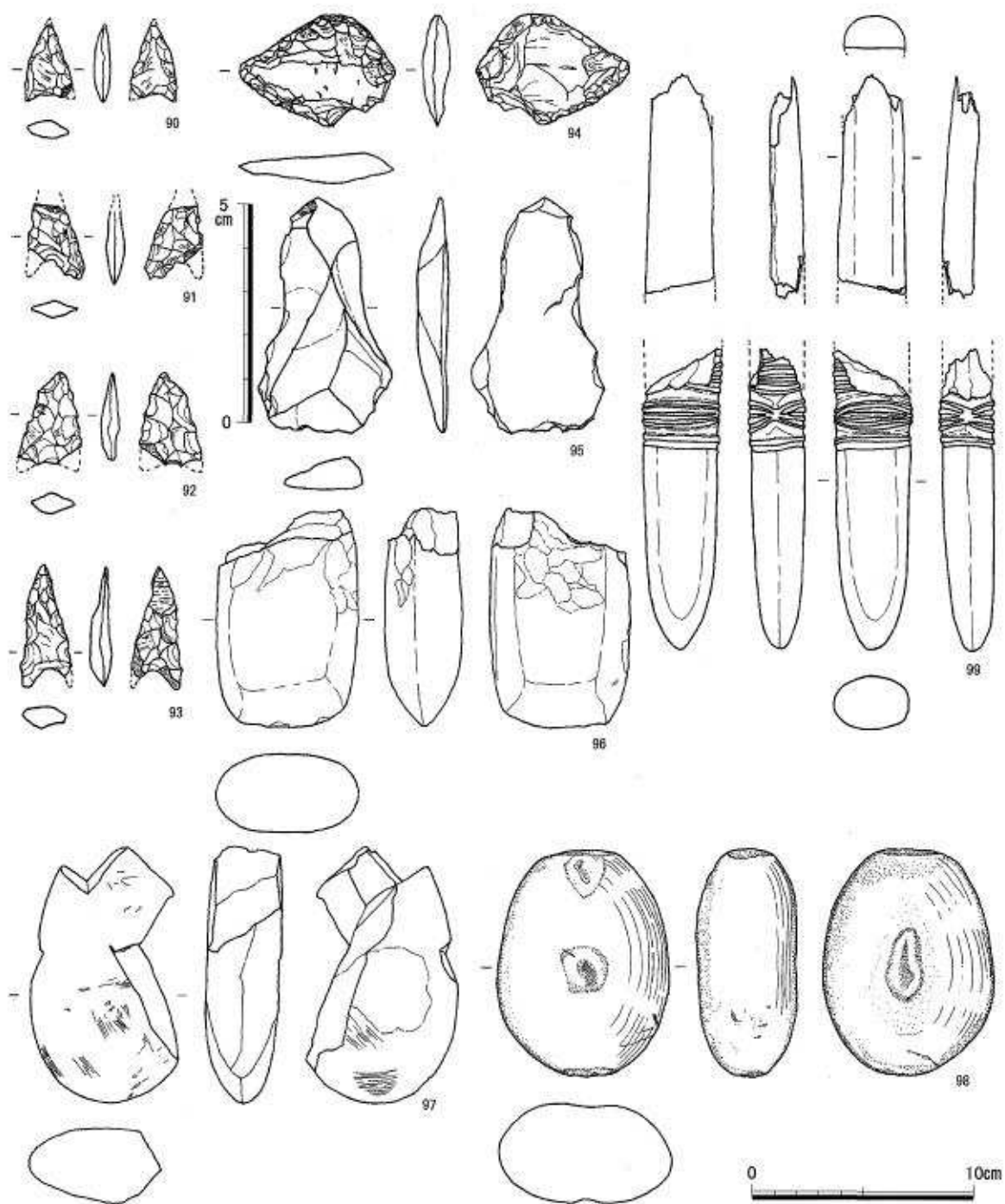


Fig. 8 縄文時代の石器・石製品実測図 90~93は2:3 94~99は1:3

2 奈良時代以後の遺物 (PL.6)

100は須恵器蓋。101は須恵器杯の底部。102は東播系こね鉢で、口径25.6cm。103は山茶碗。104・105は瓦器椀。106は瓦質播鉢。107は瓦質甕。108~111は土師器皿。112は土師器鍋。113・114は中国製青磁。115は備前播鉢。116は鉄滓。117は肥前系磁器椀。100・106・108~110・114は土坑001。101・102~105・107・111~113・115・116は土坑002。117は土坑008出土。

III ま と め

今回の調査によって、縄文時代と中・近世の遺構を検出し、縄文土器や石器・石製品、奈良時代と中・近世の土器・陶磁器等を発見することが出来た。

田井遺跡の発見は1939年に遡る。今回の調査区のすぐ北側で、サイロ建設に伴い縄文土器が発見され、同年6月に小林行雄氏と小倉（旧姓浦）宏氏によって調査が行われた。その結果、縄文後期末の土器とともに、石鏃・磨製石斧・石剣残欠・硬玉製玉類等の石器・石製品が発見された旨の報告が浦宏氏によりなされている¹。

今回の調査においても、縄文土器の所属時期は、晩期初頭と中期初頭（鷹島式・船元I式）に属す可能性がある2点を除き、後期末（宮滝式・滋賀里I式）のものである。石器・石製品には、石鏃・スクレイパー・打製石斧・磨製石斧・敲石・石剣等がある。打製石斧は石材の結論が出なかったが、磨製石斧の石材より明らかに軟らかく、厚さも薄く、一方の面が扁平である。このことから、打製「石斧」は、食用植物栽培のための土掘り具としての用途も考慮されるのである。石剣も今のところ石材が分からないが、比較的硬い石を丁寧に加工して作られている。石器・石製品の石材については、今後の科学的な分析を待ちたい。

海岸（煙樹ヶ浜）から調査区までの距離はおよそ1.5km。地山面の標高は約1.5m。日高平野において、最も海寄り、最も低い位置にある縄文時代の遺跡である。地山面は調査区の中央やや西寄りにおいて、西に向けて傾斜している（落ち込み010）。したがって、微高地の西側縁辺部を今回調査したことになる。ピット群と土坑は主に落ち込み010の東側において検出された。ピットは建物の柱穴と考えられるものが多い。土坑006は平面形と埋土の状況等から、墓の可能性がある。

奈良時代の杯と杯蓋片が出土しているので、調査区周辺にこの時代の遺構が存在するのだろう。

中世の土坑001・002からは、13世紀代の遺物も出土しているが、最も新しい遺物は15～16世紀に該当する。両者から鉄滓が出土し、同時期に存在した可能性が強い。溝009は用水路で、調査区の南側に近接して東から西に流れる現用水路の前身と思われる。

近世は土坑008のみで、18世紀の磁器が出土した。

基本層序最上層は、1953年7月の大水害によって調査区周辺の水田に取水口より高く土が堆積したので、この土を取り除きトロッコを使って当時畑であった調査区付近に運搬されて盛られた土である²。

以上、調査結果を中心に記述した。今後更なる調査・研究の進展を期待したい。

1 浦 宏 1940「紀伊日高郡松原村田井遺跡の発掘」『考古学』11-5
新宮忠男 1984「第一編 考古資料」『美浜町史 資料編』美浜町

2 地元在住の田淵勝平氏よりご教示いただいた。水害時に玄関の鴨居の高さまで水没したという。

Tab.1 遺構一覧表

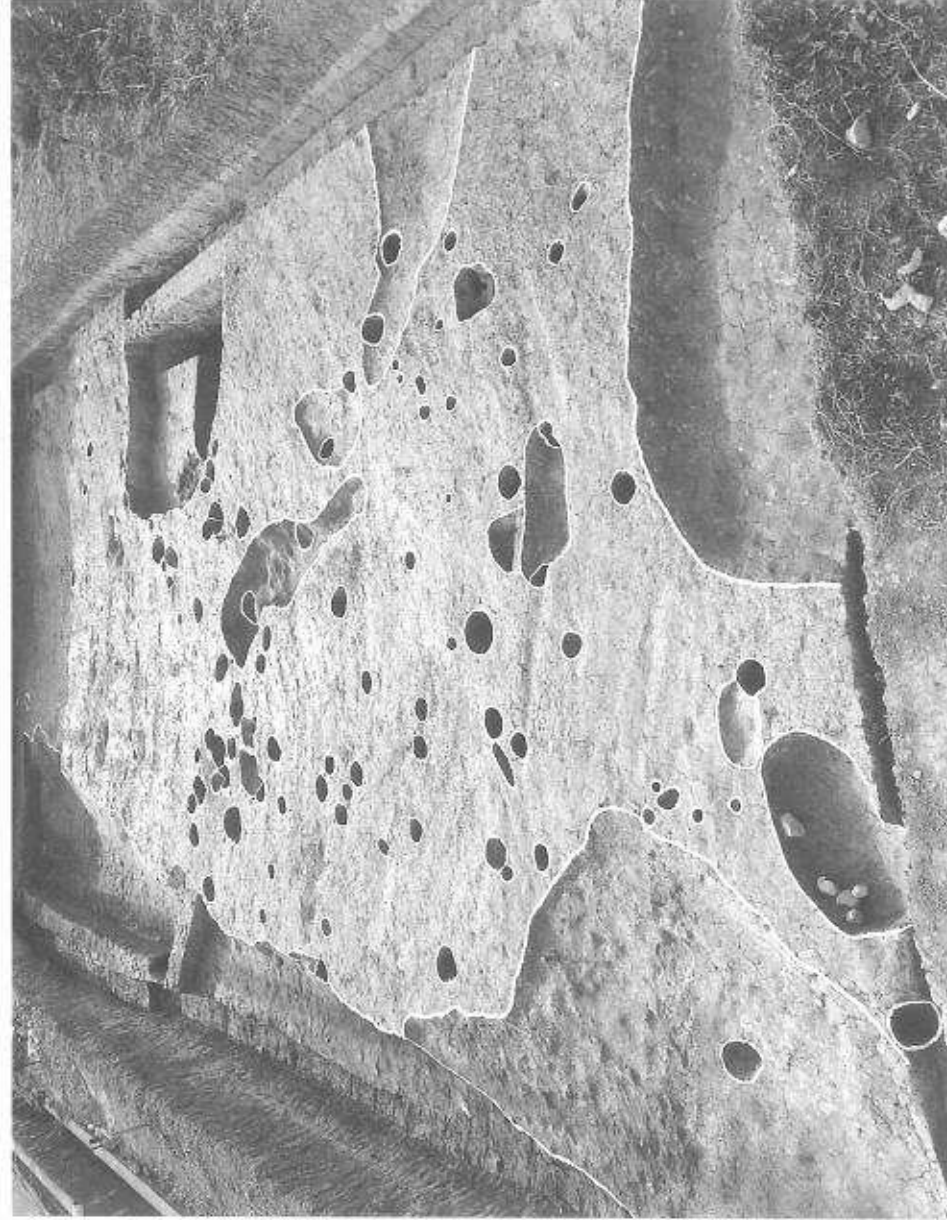
番号	種別	平面形	規模 (m)			時代	備考	番号	種別	平面形	規模 (m)			時代	備考
			平面	深さ	深さ						平面	深さ			
001	土坑	隅丸方形?	5.80以上	2.10以上	0.35	中世	北・東が調査区外	056	ピット	円形	0.16	0.16	0.06	縄文	
002	土坑	不整形	6.00以上	3.50以上	0.28	中世	南・東が調査区外	057	ピット	円形	0.19	0.19	0.45	縄文	
003	土坑	不整形	3.50以上	1.80	0.18	縄文	北が調査区外	058	ピット	楕円形	0.29	0.25	0.28	縄文	
004	土坑	楕円形	1.35	0.85	0.10	縄文	81・104より古い	059	ピット	楕円形	0.32	0.19	0.17	縄文	
005	土坑	不整形	2.40	1.10	0.20	縄文	106より古い	060	ピット	楕円形	0.27	0.23	0.27	縄文	
006	土坑	楕円形	1.35	0.75	0.25	縄文	土坑墓? 壁跡に河原石	061	ピット	楕円形	0.32	0.26	0.39	縄文	
007	土坑	楕円形	1.25	0.55	0.15	縄文	27・42・43より新しい	062	ピット	円形	0.22	0.22	0.20	縄文	
008	土坑	隅丸方形?	3.85	3.85以上	1.35	近世	北が調査区外	063	ピット	円形	0.17	0.16	0.11	縄文	
009	溝	直線状	18.4以上	4.00以上	0.55	中世	両端 南が調査区外	064	ピット	円形	0.17	0.17	0.12	縄文	
010	落ち込み				0.30	縄文	自然の傾斜面	065	ピット	隅丸方形?	0.40以上	0.37	0.06	縄文	底面に小ピット66より古い
011	ピット	不整形	0.60	0.55	0.19	縄文	底面に小ピット3つ	066	ピット	隅丸方形	0.50	0.48	0.17	縄文	65より新しい89より古い?
012	ピット	楕円形	0.55	0.30	0.04	中世	13より新しい	067	ピット	楕円形	0.52	0.45	0.23	縄文	
013	ピット	円形	0.24	0.23	0.21	縄文	12より古い	068	ピット	円形	0.33	0.32	0.29	縄文	2段落ち
014	ピット	円形	0.08	0.08	0.05	縄文		069	ピット	隅丸方形	0.38	0.30	0.22	縄文	
015	ピット	円形	0.09	0.09	0.10	縄文		070	ピット	楕円形	0.21	0.18	0.29	縄文	
016	ピット	楕円形	0.22	0.13	0.09	縄文		071	ピット	楕円形	0.33	0.33	0.16	縄文	
017	ピット	円形	0.08	0.08	0.04	縄文		072	ピット	円形	0.17	0.17	0.24	縄文	
018	ピット	円形	0.12	0.12	0.07	縄文		073	ピット	楕円形	0.22	0.20	0.05	縄文	
019	ピット	楕円形	0.36	0.27	0.13	縄文		074	ピット	楕円形	0.52	0.38	0.24	縄文	両端が深い
020	ピット	楕円形	0.22	0.19	0.10	縄文		075	ピット	楕円形	0.46	0.28	0.18	縄文	
021	ピット	円形	0.25	0.25	0.22	縄文		076	ピット	円形	0.16	0.15	0.12	縄文	
022	ピット	円形	0.17	0.17	0.09	縄文		077	ピット	楕円形	0.19	0.16	0.19	縄文	
023	ピット	円形	0.18	0.18	0.40	縄文		078	ピット	楕円形	0.23	0.18	0.17	縄文	
024	ピット	円形	0.10	0.09	0.08	縄文		079	ピット	楕円形	0.35	0.28	0.43	縄文	82より新しい
025	ピット	円形	0.13	0.13	0.07	縄文		080	ピット	楕円形	0.30	0.24	0.30	縄文	
026	ピット	円形	0.28	0.28	0.22	縄文		081	ピット	円形	0.22	0.21	0.38	縄文	
027	土坑	楕円形?	0.40以上	0.50	0.16	縄文	7より古い	082	ピット	楕円形?	0.26以上	0.24	0.09	縄文	79より古い
028	ピット	円形	0.09	0.09	0.03	縄文		083	ピット	楕円形	0.42	0.34	0.50	縄文	84より古い
029	ピット	円形	0.18	0.18	0.08	縄文		084	ピット	楕円形	0.28以上	0.28	0.22	縄文	83より新しい
030	ピット	楕円形	0.17	0.14	0.07	縄文		085	ピット	土坑	1.20	0.95	0.34	縄文	5・107より古い
031	ピット	円形	0.12	0.12	0.13	縄文	32より新しい	086	ピット	楕円形	0.22	0.17	0.08	縄文	
032	ピット	円形	0.11	0.11	0.11	縄文	31より古い	087	ピット	楕円形	0.46	0.29	0.35	縄文	2段落ち
033	ピット	円形	0.10	0.10	0.04	縄文		088	ピット	楕円形	0.56	0.36	0.18	縄文	
034	ピット	円形	0.11	0.11	0.05	縄文		089	ピット	楕円形	0.32	0.29	0.37	縄文	2段落ち 壁に河原石
035	ピット	楕円形	0.22	0.17	0.17	縄文		090	ピット	楕円形	0.33	0.28	0.14	縄文	
036	ピット	円形	0.20	0.19	0.12	縄文		091	ピット	楕円形	0.32	0.30	0.15	縄文	
037	ピット	円形	0.27	0.25	0.44	縄文		092	ピット	円形	0.27	0.26	0.16	縄文	
038	ピット	楕円形	0.44	0.15	0.05	縄文		093	ピット	円形	0.42	0.42	0.30	縄文	96・97より新しい
039	ピット	円形	0.13	0.13	0.10	縄文	40より新しい	094	ピット	楕円形	0.35	0.26	0.27	縄文	
040	ピット	隅丸方形	0.26	0.25	0.15	縄文	39より古い	095	ピット	楕円形	0.34	0.31	0.32	縄文	
041	ピット	楕円形?	0.25	0.21	0.23	縄文		096	ピット	楕円形	0.34	0.30	0.46	縄文	93より古い
042	ピット	円形	0.20	0.19	0.33	縄文	7より古い	097	ピット	楕円形	0.32	0.30	0.31	縄文	93より古い
043	ピット	楕円形	0.20	0.18	0.33	縄文	7より古い	098	ピット	円形	0.16	0.16	0.21	縄文	
044	ピット	楕円形	0.33	0.29	0.34	縄文		099	ピット	楕円形?	0.15以上	0.14	0.12	縄文	
045	ピット	楕円形	0.22	0.19	0.18	縄文		100	ピット	楕円形	0.30	0.26	0.35	縄文	9・105より古い
046	ピット	楕円形	0.17	0.15	0.09	縄文		101	ピット	楕円形	0.21	0.14	0.12	縄文	2段落ち
047	ピット	隅丸方形	0.20	0.19	0.26	縄文	埋土に炭屑をじる	102	ピット	楕円形	0.31	0.28	0.54	縄文	3より古い?
048	ピット	楕円形	0.22	0.18	0.13	縄文		103	ピット	楕円形	0.31	0.28	0.26	縄文	3より古い?
049	ピット	円形	0.37	0.37	0.48	縄文	底面に河原石	104	ピット	楕円形	0.26	0.21	0.18	縄文	
050	ピット	楕円形	0.12	0.10	0.09	縄文		105	土坑	楕円形?	0.65	0.19以上	0.05	縄文	100より新しい
051	ピット	不整形楕円形	0.36	0.30	0.23	縄文		106	ピット	楕円形	0.42	0.31	0.29	縄文	5より新しい
052	ピット	楕円形	0.23	0.19	0.24	縄文		107	ピット	円形	0.46	0.47	0.40	縄文	85より新しい
053	ピット	円形	0.24	0.24	0.20	縄文		108	ピット	楕円形	0.15	0.11	0.07	縄文	
054	ピット	円形	0.17	0.17	0.12	縄文		109	ピット	楕円形	0.33	0.24	0.12	縄文	
055	ピット	楕円形	0.24	0.21	0.15	縄文									

Tab.2 縄文土器観察表1

遺物 番号	出土遺構	残存部位	色調		文様要素	胎土・備考
			内面	外面		
1	土坑006	口縁部	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y4/2 暗灰黄	【外面】 刺突、沈線	結晶片岩含む
2	ピット079	胴部	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	【外面】 集合沈線文	
3	ピット022	口縁部	10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰	【外面】 巻貝圧痕、刺突、凹線、刻み	4と同一個体か
4	ピット022	口縁部	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	【外面】 刺突、沈線	3と同一個体か
5	土坑008	口縁部	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
6	土坑007	口縁部	N5/0 灰	N5/0 灰	【内面】 刺突【外面】 巻貝圧痕、凹線	
7	ピット031	口縁部	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	【外面】 凹線	口端面取り
8	ピット085	口縁部	7.5YR6/6 橙	2.5Y5/1 黄灰	【外面】 凹線	
9	落ち込み010	口縁部	10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	【外面】 凹線	
10	ピット085	口縁部?	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	【外面】 凹線、刻み?	
11	土坑008	口縁部	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	【外面】 凹線	口端面取り
12	土坑006	口縁部	10YR5/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐	【外面】 凹線	
13	土坑005	口縁部	10YR5/1 褐灰	2.5Y8/2 灰白	【外面】 凹線	
14	落ち込み010	口縁部	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/2 黒褐	【外面】 凹線	
15	ピット068	口縁部	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	【外面】 凹線	
16	土坑008	口縁部	2.5Y7/2 灰黄	10YR8/3 浅黄橙	【外面】 凹線	口端面取り
17	土坑007	口縁部	2.5Y4/1 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	【外面】 凹線	
18	ピット093	口縁部	2.5Y6/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙	【外面】 凹線	
19	土坑006	口縁部	2.5Y8/2 灰白	7.5YR7/6 橙	【外面】 凹線	
20	落ち込み010	口縁部	2.5Y5/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄橙	【外面】 凹線	
21	土坑008	口縁部	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	【外面】 凹線	結晶片岩含む
22	落ち込み010	口縁部	N3/0 暗灰	N2/0 黒	【内面】 凹線	
23	溝009	口縁部	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/1 黄灰	【内面】 凹線	
24	落ち込み010	口縁部	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	【内面】 凹線	
25	ピット049	口縁部	10YR8/2 灰白	10YR4/1 褐灰	【内面】 凹線	
26	落ち込み010	口縁部	2.5Y4/1 黄灰	10YR6/2 灰黄褐	【内面】 凹線	口端面取り
27	落ち込み010	口縁部	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄	【内面】 凹線	
28	落ち込み010	口縁部	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	【内面】 凹線	
29	ピット057	口縁部	10YR6/3 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	【内面】 凹線 【外面】 凹線	
30	ピット067	口縁部	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	【内面】 凹線 【外面】 凹線	
31	土坑005	口縁部	10YR3/1 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙	【内面】 凹線 【外面】 凹線	
32	ピット083	口縁部	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	【内面】 凹線 【外面】 凹線	結晶片岩含む
33	土坑006	口縁部	2.5Y6/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙	【内面】 凹線 【外面】 凹線	
34	落ち込み010	口縁部	10YR8/3 浅黄橙	10YR5/1 褐灰	【内面】 刺突	
35	ピット089	胴部	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
36	ピット085	胴部	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
37	溝009	胴部	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
38	落ち込み010	胴部	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y8/2 灰白	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
39	ピット011	胴部	2.5Y3/1 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	【外面】 巻貝圧痕、凹線	結晶片岩含む
40	落ち込み010	胴部	2.5Y4/1 黄灰	2.5YR6/8 橙	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
41	土坑003	胴部	5Y4/1 灰	7.5YR7/4 にぶい橙	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
42	土坑003	胴部	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/6 橙	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
43	ピット085	胴部	10YR4/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	【外面】 巻貝圧痕、凹線	
44	土坑003	胴部	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	【外面】 凹線	
45	ピット085	胴部	10YR8/2 灰白	10YR6/2 灰黄褐	【外面】 凹線	

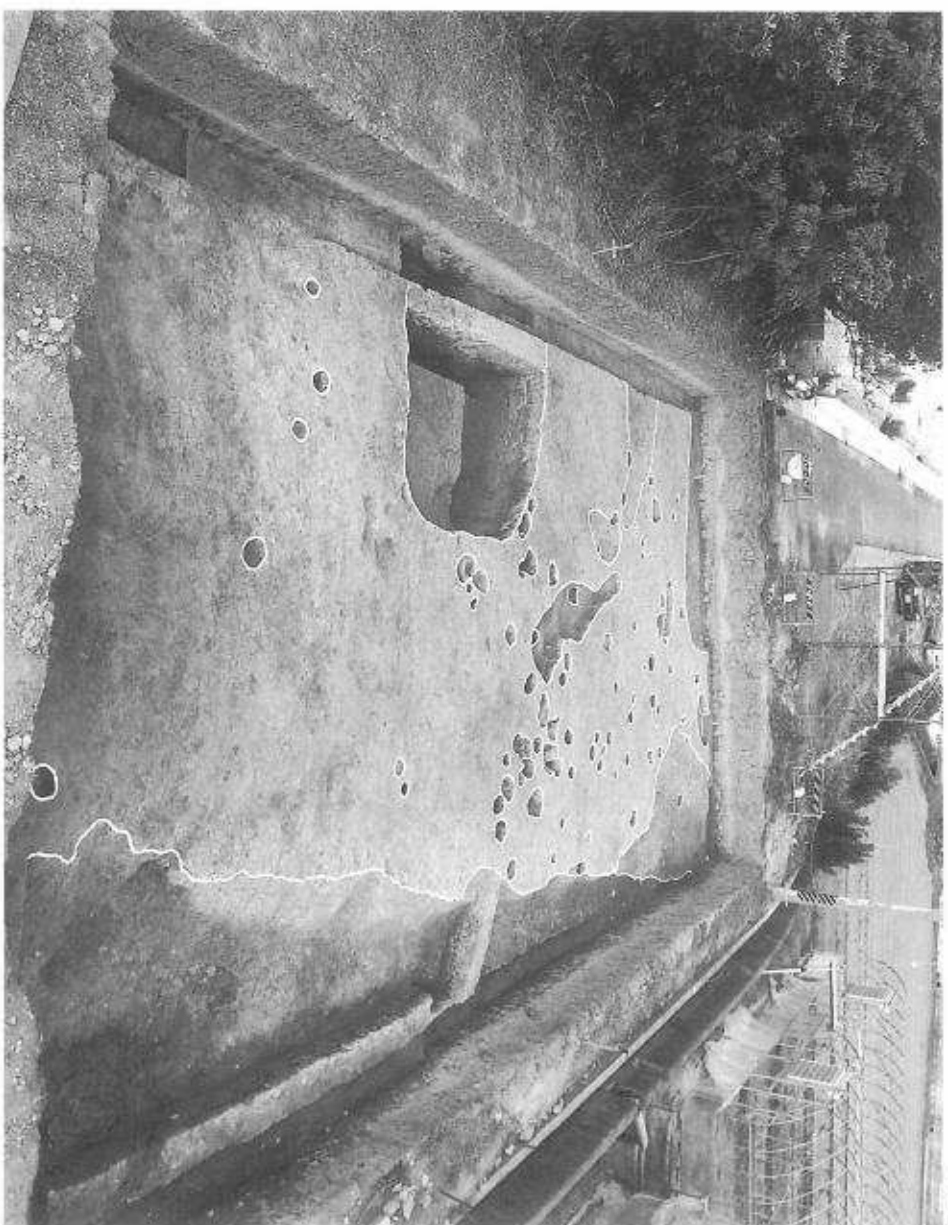
Tab. 3 縄文土器観察表 2

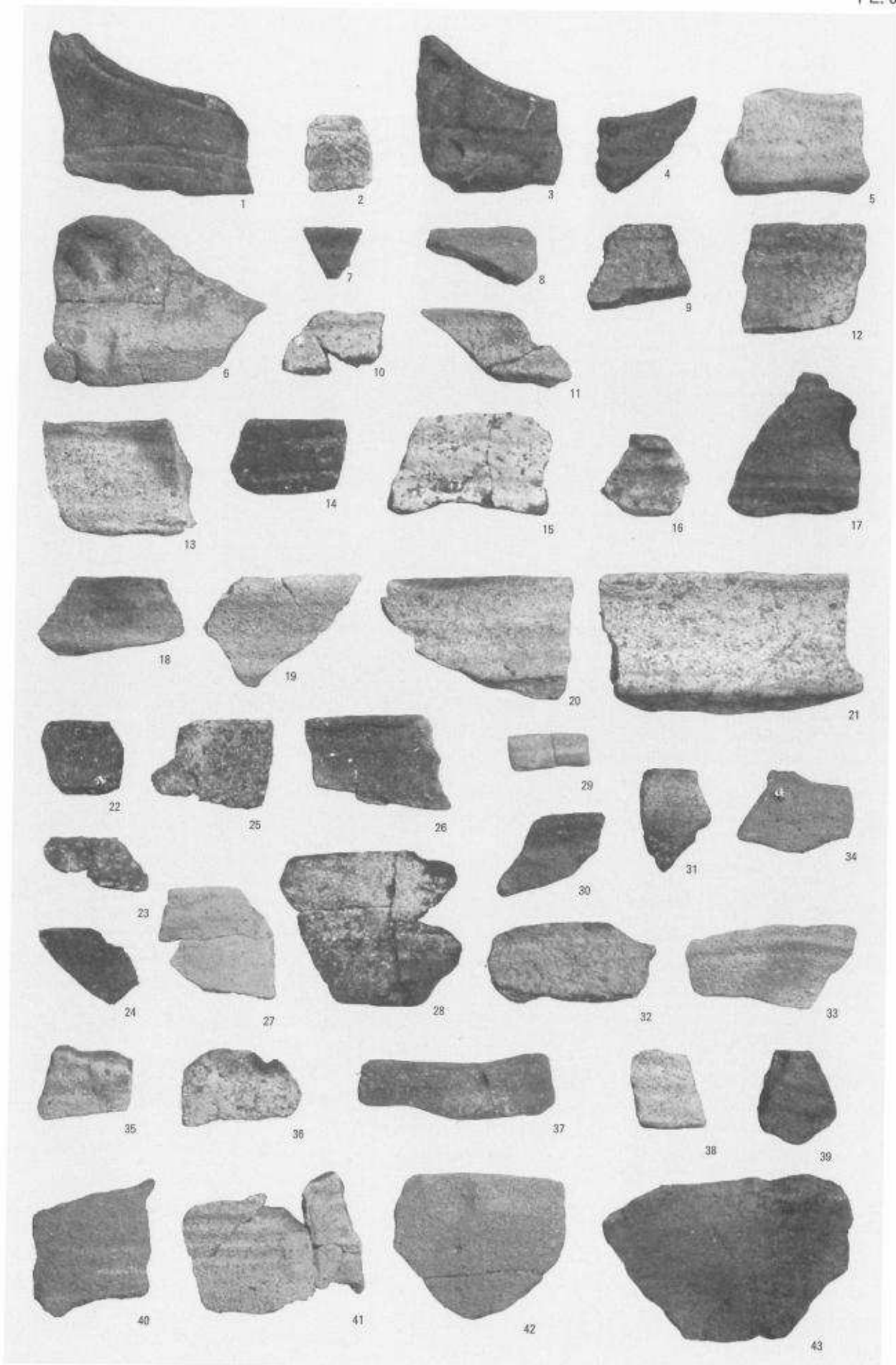
遺物 番号	出土遺構	残存部位	色調		文様要素	胎土・備考
			内面	外面		
46	落ち込み010	胴部	10YR5/1 褐灰	10YR8/3 浅黄橙	【外面】凹線	
47	土坑006	胴部	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR8/2 灰白	【外面】凹線	
48	ピット093	胴部	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	【外面】凹線	
49	土坑003	胴部	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	【外面】凹線	
50	溝009	胴部	10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰	【外面】凹線	
51	土坑006	胴部	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	【外面】凹線	
52	土坑006	胴部	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	【外面】凹線	
53	ピット102	胴部	2.5Y5/1 黄灰	7.5YR7/4 にぶい橙	【外面】凹線	
54	溝009	胴部	5YR7/6 橙	2.5YR7/6 橙	【外面】凹線	
55	落ち込み010	胴部	10YR6/2 灰黄褐	10YR8/4 浅黄橙	【外面】凹線	
56	ピット085	口縁部	10YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐		突起状口縁 口端面取り
57	ピット023	口縁部	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐		
58	ピット085	口縁部	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		
59	溝009	口縁部	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		
60	土坑027	口縁部	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		
61	ピット085	口縁部	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		
62	ピット057	口縁部	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/1 褐灰	【外面】巻貝条痕	
63	土坑003	口縁部	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白		
64	土坑006	口縁部	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/2 灰黄		結晶片岩含む
65	土坑006	口縁部	2.5Y2/1 黒	2.5Y5/2 暗灰黄		
66	ピット085	口縁部	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐		
67	土坑003	口縁部	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙		
68	土坑027	口縁部	10YR8/3 浅黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙		
69	土坑027	口縁部	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙		
70	土坑027	口縁部	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y7/3 浅黄		口端面取り
71	土坑005	口縁部	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰		
72	ピット049	口縁部	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐		口端面取り
73	溝009	口縁部	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙		
74	落ち込み010	口縁部	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰		
75	落ち込み010	口縁部	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄		
76	ピット093	口縁部	2.5Y5/1 黄灰	10YR3/1 黒褐		口端面取り
77	土坑008	口縁部	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙		
78	落ち込み010	口縁部	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰		
79	土坑008	口縁部	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙		
80	土坑006	口縁部	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙		結晶片岩含む
81	ピット097	口縁部	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰		
82	ピット038	胴部	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	【外面】巻貝条痕	
83	ピット068	胴部	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐		
84	ピット102	胴部	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR8/3 浅黄橙		結晶片岩含む
85	ピット085	底部	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐		凹底
86	土坑003	底部	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		凹底
87	土坑003	底部	2.5Y5/1 黄灰	7.5YR7/6 橙		凹底
88	土坑006	底部	7.5YR4/3 褐	7.5YR7/3 にぶい橙		凹底
89	ピット038	胴部	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	【外面】爪形文?	

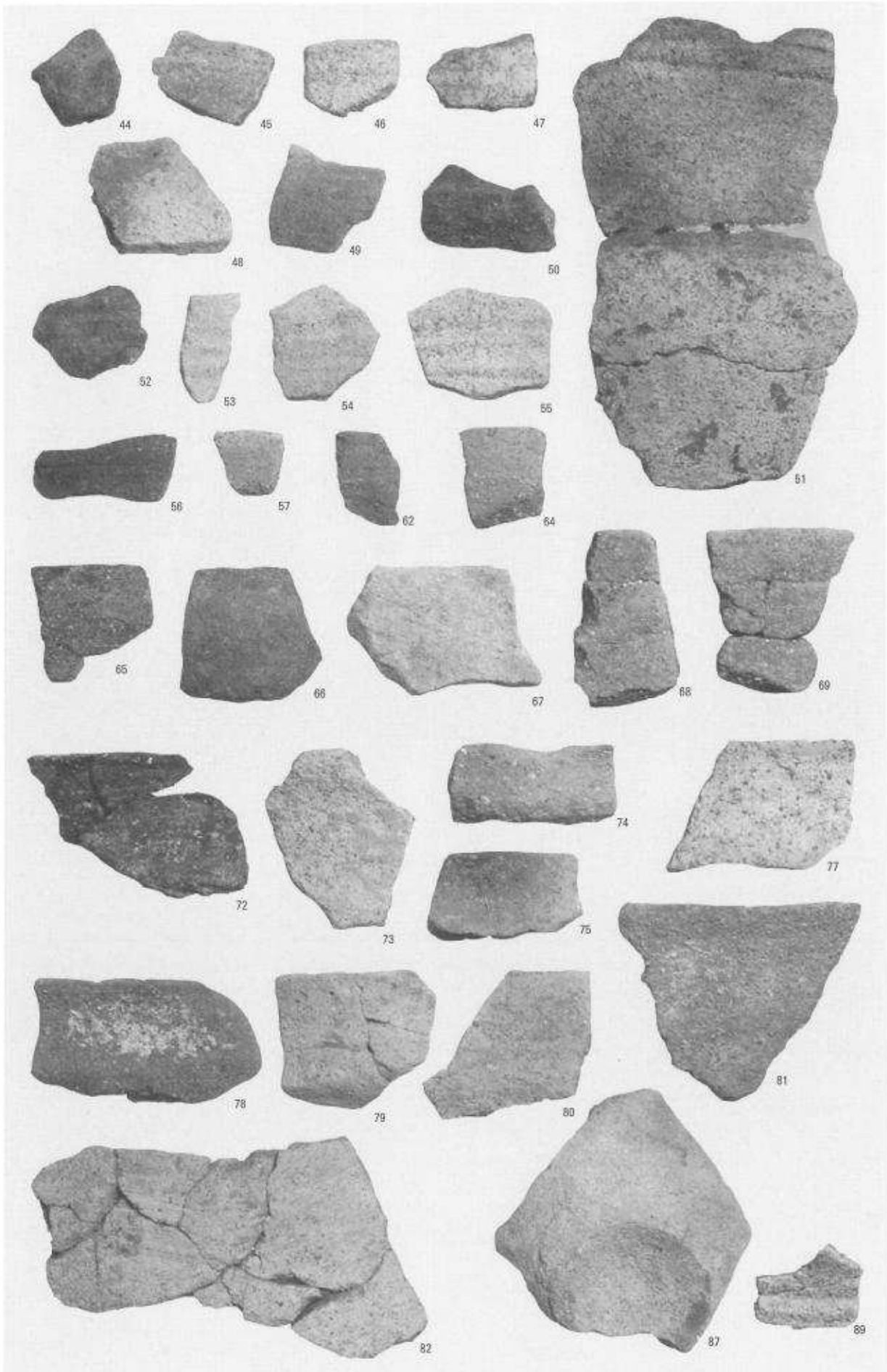


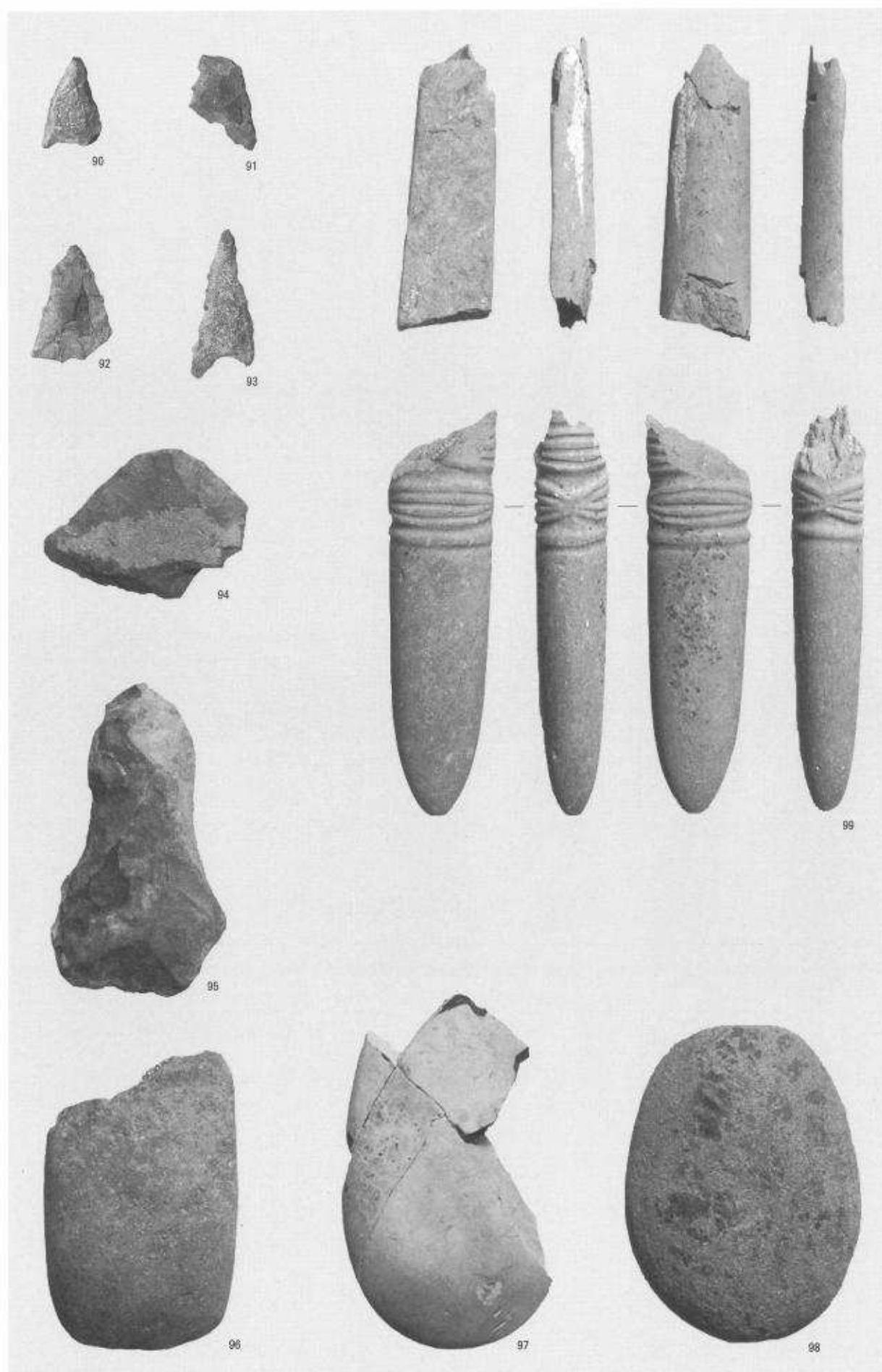
上：調査地遠景 東から 下：調査区全景 東から

上：調査区全景 西か5 下：土坑 006 北東か5

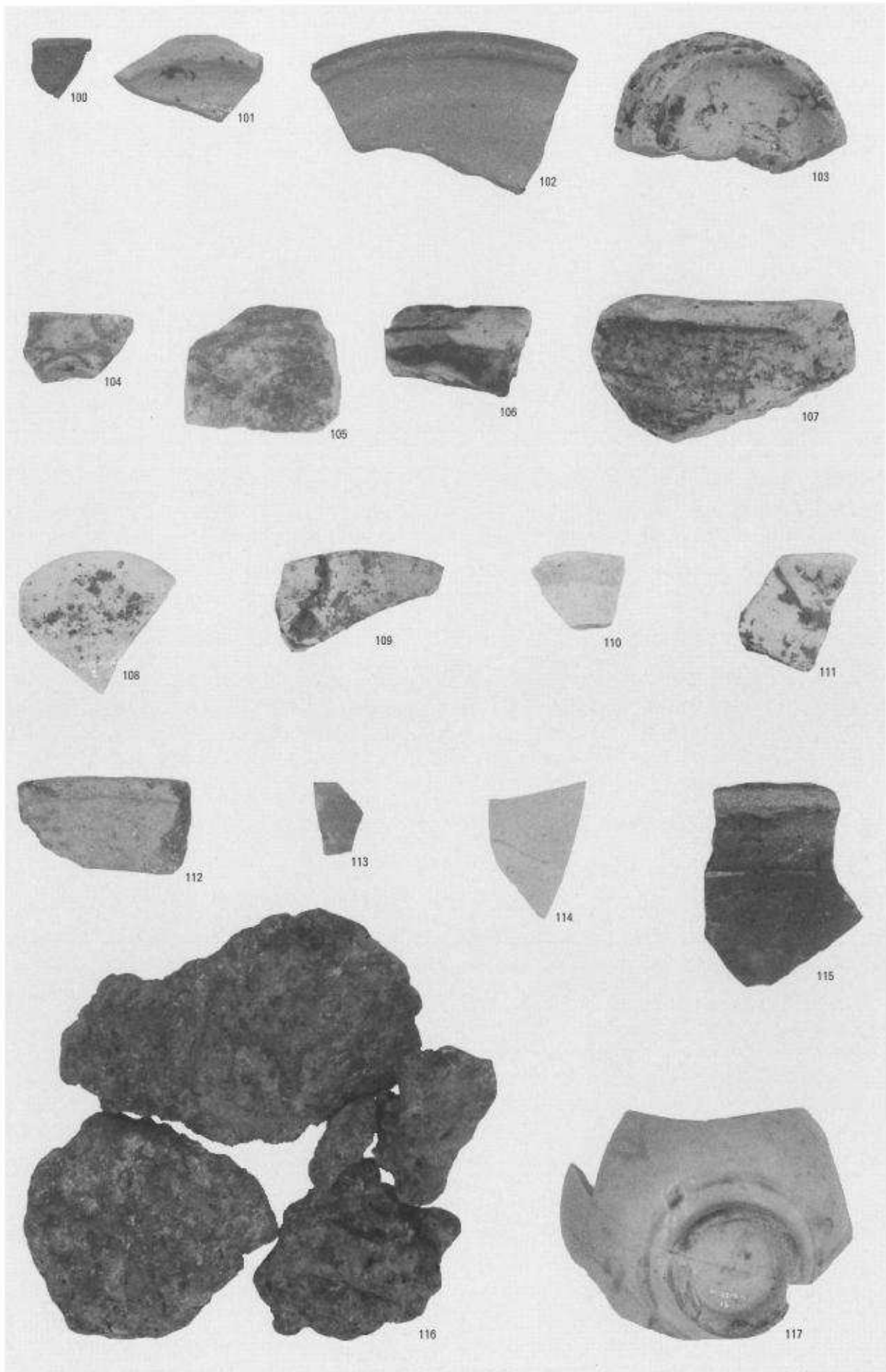








縄文時代の石器・石製品 90~93 1 : 1 94~99 1 : 2



報告書抄録

ふりがな	たい・にしかわいせき							
書名	田井・西川遺跡							
副書名	町道上田井下財部線道路建設工事に伴う発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	山本高照・川崎雅史・河本純一							
編集機関	財団法人和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8404 和歌山市湊 571 番地 1 Tel 073-433-3843							
発行者	財団法人和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8404 和歌山市湊 571 番地 1 Tel 073-433-3843							
発行年月日	2007年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たい・ にしかわいせき 西川遺跡	わかやまけん 和歌山県 ひだかぐん 日高郡 みはまちょう 美浜町 たい 田井	30381	25 15・16	33° 53' 51" (世界測地系)	135° 08' 47" (世界測地系)	2007.9.7 と 2007.9.28	204㎡	町道上田井 下財部線道 路建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
田井・ 西川遺跡	集落	縄文時代 中世 近世	ピット群、土坑、 土坑墓？ 土坑、溝 土坑	縄文土器、石器・石製品、 陶磁器、鉄滓など		縄文後期末の集落 石剣が出土		

2007年12月24日印刷

2007年12月28日発行

田井・西川遺跡

町道上田井下財部線道路建設工事に伴う発掘調査報告

編集発行 財団法人和歌山県文化財センター
和歌山市湊 571 番地 1

印刷 初田印刷株式会社
和歌山市吹上五丁目 4 番 40 号